

たけやぶ No.4



2009. 4. 10
自主学童 保育ささのほクラブ

こども文化センターには、大きな桜の木が2本あって、1本は、創作室の窓のほのくに広がっています。風にふかれ、花びらが空の中にまで舞い込んで、みんなで思わず見とれています。

4月1日から数日は、ドロイ、まけり

とひたすら走り回り毎日でしたが、今はやはり「泥だんご作り」と川作り。初夏みたいな陽気で、まず、^{穴開き}で水鉄砲のように、水を出して遊んでいたのが、水かけオコシ（穴開き）になり、次にスコップで川を掘ってバケツで水をくんで流して、川作りになり、池の底にたまった泥でだんご作り……。遊んでいるうちに、発想が広がり、次々と色々な遊びに発展して行くので、見ていて面白いものです。水をくむのも土を掘るのも自然に力を合わせて、みんながくりするほど働き着て、根気強い人達です。大きな穴に重い水を運んで来て水を入れて、しばらくしたらなくなっていた時、「オイ、お前この水何に使ったのよ!」「え、使てないよ」「さ、き泥作りに使ったのよ、使て過ぎたよ」「えんなに使てないよ」……暗水続きで、水は土にどんどんしみ込むものだと気付くまでケンケンガクガク、しみ込んだ水はどこへ?? 考えはどんどん広がって行くようです。

泥だんご作りは、保育園の泥だんご作り競争で鍛えた技を伝授する人もいて、奥が深〜いものらしく、どうやら固くなるが「白砂(かぬいた土)を求めて集団であちこちと移動しています。大事なだんごを「当番の間持てね」と預けた1年生がうっかり落として割ってしまった時は数人が集って割れただんごを元通りにしようと「ああ、こうだと水をかけたり、泥をこねたりもして来た人に「直したいたから」と説明して「ああ」とニコリされた時の、ほとし顔には思わず笑ってしまいました。顔も手も服もくつも「白砂、だらけのきなこ色」になります。自分の大事なだんごを次の日まで安全に、より固くなるように、隠しておくのも一苦労で、土に埋めたり(?)物置の床下にしまったり。寝転んで「見える! ダメだ!」大丈夫だよ、えんな所で寝る人いないからよ、「あ、そうだね」

新入生を迎える会

4/9(木)は、「新入生を迎える会」をしました。3年生の初仕事として、「学童の1年間」をパネルシアターと歌とダンスで紹介しました。13人の班生が、春・夏・秋・冬の季節に分かれて、「ささのほ」でやることを紹介します。3月末の春休み中に話を考え、練習は入学式で1年生がいよいよ1日で完成させました。これは4/9(日)歓迎ハイキングの午後に保護者の方にも見てもらうので楽しみにしててください。3年生達はとても張り切っていて、2時半から始めるから2時20分には、みんなで声をかけ合って集まるように言っておいたら、きちんと集って、会場作り(イスを並べたり、パネルシアターの準備をしたり)をしました。普段はまだまだチャランポランすることも多い3年生達が、まじめに準備している姿は、保護者の方達に見せたい位でした。汗だくになって(夏のような日)踊って歌って、一生懸命話しをしている3年生達を、1年生達も^①^②と色々な表情で楽しそうに真剣に見ていました。^③が1年生を見て一番面白かったのは、「ジギスカン」のダンスを踊った時。3年生だけでなく、4・5・6年生も、



まわっていきよに踊り出し、踊っている方は、ケラケラ笑いながら、とびはねていたのですが、最前列で見ていた1年生圧倒されて、真剣な顔・顔・顔、誰もニコリともせず、横を向いても後ろを見ても踊る集団に「亞然」という表情でした。今夜うなされるのでは?と心配になる位。

その後は、みんなでまるくになって震源地という「まね、こゲーム」をしました。この時は、1年生もケラケラ笑って参加していました。

「学童の1年間」は、すごく上手だったよ」と6年生のお母さんにほめられてほとしたうれしそうな顔の3年生達でした。みんな1年生がいることがうれしいという感じ。名前を呼びすてにされても、名前を覚えてくれたおかげでうれしいと「べつにいいし」という、当番の時にいなくなても、文句も言わず追いかけて、説得して連れ戻ってくる人、お茶を飲んでおさせた1年生の背中をトントンと優しくたたき、いよに遊んで、きかんぼうの1年生に注意してきちんと言うことを聞かせることのできるようになった人、こんな濃密な関りの毎日の積み重ねを大切にしていきたいと思えます。